



Rotary
Club of KOBE EAST



The Rotary club of Kobe East **BULLETIN**



神戸東ロータリークラブ会報 No.382 2016-2017 No2

表紙絵：太原 震也元会員

会 長／横山 幹夫 副会長／澤田 正樹 幹 事／大澤 勇 雑誌会報委員長／石橋 恒生 副委員長／田中 義明
例会場：ホテルオークラ神戸 例会曜日：毎週火曜日

クラブ会長テーマ 「楽しもう、そして何ができるか考えよう」

Enjoy Club Life and Think what We can do!



RI President

John Germ
2016-2017年度国際ロータリー会長





国際ロータリー第 2680 地区
ガバナー 室津 義定 (尼崎中)

最初に、ジョン・ジャーム R I 会長の略歴をご紹介します。

職業分類は、土木技術者です。大学卒業後、空軍に4年間在籍された後、1965年にエンジニアリングのコンサルティング会社に入社され、ずっとそこで勤務され、取締役会長、CEOを務められました。ロータリーに関しましては、1976年にアメリカ・テネシー州のチャタヌーガRCに入会されて以来、R I 理事、R I 副会長、財団管理委員、財団副管理委員長、ポリオ撲滅に関するゲイツ財団とのロータリー2億ドルチャレンジ委員長などを歴任されました。そして、ロータリー超我的奉仕賞、財団特別功労賞を受賞され、ご夫婦でアーチ・クランフ・ソサエティのメンバーです。

ジョン・ジャーム会長は、国際協議会において、R I テーマ“人類に奉仕するロータリー”を発表され、その講演において、次のように述べられました。

ロータリーは、1985年からポリオ撲滅を最優先事項とし、1988年からは、世界保健機構 (WHO)、米国疾病管理センター (CDC)、国連児童基金 (UNICEF) を主要パートナーとして、世界ポリオ撲滅推進計画 (GPEI) を遂行しています。そして、現在までに、25

億人の子どもが予防接種を受け、ポリオ感染者は、1985年の35万人から2015年には74名となりました。今年は、1月から9月21日までに、パキスタンで14件、アフガニスタンで9件、ナイジェリア (ポリオフリーとなっていた国から8月に発症) で3件しか発症がありません。私たちは、必ずや、ポリオ撲滅を成し遂げます。

ポリオフリーの世界が実現した時、ポリオ撲滅におけるロータリーの貢献を周知させ、その成功をその後、より野心的な奉仕活動にどうつなげていくかを考えておく必要があります。ロータリーのポリオ撲滅における功績を知る人が増えれば、パートナー団体、資金、そして何よりも、さらに多くのよいことの達成に参加する会員が増えます。

ロータリーの評価を高めるには、ロータリーとは何か、何に取り組んでいるのかをクラブを通じて地域社会にその情報を広げていく必要があります。社会貢献をしたい人たちが、ロータリー入会こそが、世界を変える方法だと考えるようにすること。そのためには、クラブにその機会を提供する用意がなければなりません。

さらに、新会員を入会させるだけでなく、ロータリー奉仕に積極的に参加できるクラブ、活気があり、「4つのテスト」を真に実践するクラブが必要です。ポール・ハリスが111年前にロータリーを創設した目的は「価値観を分かち合う人を見つける」ことであり、今日も人々がロータリーに入会する理由となっています。そして、誠実さ、多様性、寛容、友情、平和を信じ、人生の最大の目的は、「人類のために奉仕する」ことだと信じている人々と出会うことです。

ロータリーは変革を遂げ、時代の変化に対応し、前進しています。しかし、ロータリーの奉仕理念は不変です。高い「倫理基準」は時代を超えた価値観です。そして何よりもポール・ハリスが信じたと同じように、人生の最大の目的は「人類に奉仕する」ことだ

と信じています。このような理由から 2016 - 17 年度ロータリーテーマをシンプルに、「人類に奉仕するロータリー」といたしました。

ロータリーがさらに前進するためには、「意欲」と「思いやり」と「知恵」にあふれた人たちがもっと必要です。「リーダーシップの継続性」もさらに重視する必要もあります。また、ポリオ撲滅から学んだように、最大限の成果を挙げるためには、「皆が共通の方向に進む」ことが必要です。「人類に奉仕しなければなりません。」と結ばれました。

R I テーマに基づいて、本年度のロータリーの目標が国際ロータリーとロータリー財団の共通の戦略計画として設定されました。目標は、ロータリー戦略計画の優先項目ごとに示されています。

優先項目：クラブのサポートと強化に関しましては

- 目標 1 最新の退職者および若い職業人に働きかけて、会員増強を図る。
- 目標 2 会員の積極的参加とクラブの充実化を図り、会員維持率を向上させる。
- 目標 3 会長賞へのクラブの参加を増やす。
- 目標 4 ロータリー財団に対するロータリアンの知識、参加、寄付を向上させる。

優先項目：人道的奉仕の重点化と増加に関しましては

- 目標 5 永久にポリオを撲滅する。
- 目標 6 年次基金への寄付平均、および財団補助金への D D F（地区財団活動資金）拠出を高める。
- 目標 7 ポリオ撲滅への支援を続けるために、クラブと政府からの寄付を増やす。
- 目標 8 財団の補助金と 6 つの重点分野を通じて、ロータリーの人道的奉仕の質と影響を高める。
- 目標 9 青少年や若きリーダーの支援、およびロータリーの 6 つの重点分野と関連し

たプログラムや活動において持続可能性を高める。

優先項目：公共イメージと認知度の向上に関しましては

- 目標 10 ロータリーに対する人びとの認識を高める。
- 目標 11 ロータリーの功績と、「世界でよいこと」をしてきた財団の 100 年の歴史について広報する。

さらに、ロータリーの目標に従って、クラブがどのように活動するかの指針として、会長賞が設定され、そのための必須活動と活動分野ごとの目標が示されています。

会長賞に応募するための必須活動は、

- ・ロータリークラブ・セントラルで少なくとも 10 個の活動目標を設定する。
- ・R I 人頭分担金を期限までに遅延なく支払う、ことの 2 つです。

また、活動分野ごとの目標は次の通りです。

会員増強と維持に関しましては

- ・会員の純増については、会員 50 名以下のクラブは少なくとも 1 名の純増、(会員 51 名以上のクラブは少なくとも 2 名の純増) を達成する。
- ・会員維持率を前年度より 1 % 上げる。または、会員維持率 100% を維持する。
- ・40 歳未満の新会員の入会に関しては、会員 50 名以下のクラブは少なくとも 2 名、(会員 51 名以上のクラブは少なくとも 4 名) 入会させる。

人道的奉仕に関しましては、

- ・少なくとも 1 件のグローバル補助金、または地区補助金の提唱者となる。
- ・少なくとも 1 名の会員が、理事会公認のロータリー活動グループのメンバーとなる。



- ・少なくとも1名の会員が補助金管理セミナーに参加する。
- ・同じ地域にある5つ以上のロータリークラブと協力し、より大規模で、注目を集めるプロジェクトを実施する。
- ・少なくとも1つの企業、政府・地方自治体、非営利団体と協力し、より大規模で、注目を集めるプロジェクトを実施する。

財団への寄付に関しましては、

- ・536ドル以上を財団に寄付する。
- ・各会員が26ドル50セント以上を寄付して財団を支援する。
- ・ロータリー財団100周年を記念して、ポリオプラスに合計2,650ドルを寄付する。
- ・年次基金に会員平均100ドル以上を寄付する。
- ・ロータリー財団100周年を記念して、クラブから財団への合計寄付額を過去5年間の最高額とする。

オンラインツールの利用に関して

- ・全会員の少なくとも50%がMy ROTARYのプロフィールにスキルと関心を入力し、ほかのユーザーに見られるよう、その情報を公開する。
- ・ロータリーショウケースに少なくとも1件のプロジェクトを掲載する。
- ・ロータリーアイデア応援サイトでプロジェクトへの支援を募る。または、同サイトでプロジェクトを支援する。
- ・少なくとも2名の会員が、My ROTARYのフォーラムのグループに参加する。

新世代に関して

- ・ローターアクトクラブのスポンサーまたは共同スポンサーとなっている。
- ・地域社会を基盤とするローターアクトクラブのスポンサーまたは共同スポンサーとなってい

る。

- ・インターアクトクラブのスポンサーまたは共同スポンサーとなっている。
- ・少なくとも1名の会員がローターアクターまたはインターアクターのメンターとなる。
- ・クラブのプロジェクトやイベントにローターアクターまたはインターアクターが関与する。
- ・RYLAに参加者を派遣する

公共イメージに関して

- ・ロータリーおよび財団100周年について、地域社会の人びとに知ってもらうためのイベントを主催する。
- ・クラブのプロジェクトを地元メディアに取り上げてもらう。
- ・少なくとも1回のクラブイベント、プロジェクト、募金活動に地元メディアの関係者を招く。

次に、地区重点目標について、お話しします。

RIテーマ、それに基づくロータリーの目標、および会長賞を踏まえて、本地区が取り組むべき地区重点目標を設定しました。

- (1) 財団100周年の祝賀を実施し、ロータリーの公共イメージと認識を高め、ロータリー財団の補助金を利用した奉仕プロジェクト活動を通じて、クラブおよび地区の活性化を目指す。
- (2) クラブおよび地区が、紙ベースで報告書を提出する代わりに、クラブの目標設定および成果報告を「ロータリークラブ・セントラル」に入力する。
- (3) 青少年交換を持続的に実施するための体制整備を行う。

来年の国際大会は、2017年6月10日から14日まで、アメリカ・ジョージア州アトランタで開催されます。多数のロータリアン、ご家族の皆さんがご参加くださいますようお願いいたします。

最後に、2016年規定審議会では、多くの重大な決

定がなされました。クラブに直接関係する事項のいくつかをご紹介します。

① 会員身分

「国際ロータリー定款」の会員身分の規定に有りました資格条件「一般に認められた有益な事業や専門職務の所有者、共同経営者、法人役員、支配人のいずれかであること、あるいは裁量の権限がある管理職を務める重要な地位にあること」などが削除されました。すなわち、役職や経歴など限定的な条件がなくなりました。そして、改訂される「標準ロータリークラブ定款」では、会員身分の全般的条件も「善良さ、高潔さ、リーダーシップを身をもって示し、職業上および（または）地域社会でよい評判を受けており、地域社会および（または）世界において奉仕する意欲のある成人」に変更されました。

② 例会の開催頻度

クラブは、少なくとも月に2回、何らかの方法で例会を行う限り、例会頻度を減らすことができます。ただし、「標準ロータリークラブ定款」の現行規定“毎週1回、細則に定められた日と時間に、定期の会合を開かねばならない”ことに変更を加えるものではありません。例会の頻度を変更するクラブは、クラブ細則を変更する必要があります。一方で、変更を加えないクラブは、従来と同じ方法を維持することができます。

③ 新会員からの入会金

「RI細則」と「標準ロータリークラブ定款」から「入会金」が削除されました。しかし、各クラブの裁量で今後も入会金を徴収することができます。クラブは、入会金やその他の費用に関する規定をクラブ細則に加えることができます。

④ クラブの理事会および委員会構成

「標準ロータリークラブ定款」に理事会および委員会の構成に関する項目が加わりました。

- ・理事会構成として、「会計」を理事会メンバーとする、
- ・委員会構成に「クラブ管理運営」、「会員増強」、「公共イメージ」、「ロータリー財団」、「奉仕プロジェクト」の委員会を有すべきである。必要に応じて追加の委員会を任命できる。これは従来、「推奨ロータリークラブ細則」で定められていたものが、定款の規定に変更されたものであります。

⑤ クラブ理事会議事録に関する規定

「標準ロータリークラブ定款」において、理事会議事録を会合後60日以内に全会員が入手できるようにすべきであると定められました。

規定審議会決定を踏まえて、各クラブにおかれましては、クラブ細則の改訂等、クラブとしての対応を行なって頂く必要がございます。本年度内に、それらの作業を完成させて、次年度からは完全に規定審議会決定に基づいたクラブ体制にさせていただきますようお願いいたします。

今年度地区大会は、来年3月4日、5日にポートピアホテルで開催されます。特別講演には、iPS細胞を用いた網膜再生医療研究の第一人者である理化学研究所の高橋政代先生にお越しいただきます。また、地区指導者育成セミナーでは、ビチャイ・ラタクル元RI会長にお話を頂くことにしております。ご参加くださいますよう切にお願いいたします





米山記念奨学生 姜 秉 俊
(KANG BYUNG JUN)

「光のはなし」

二回目の卓話のテーマは、私の専門と関わりのある「光」である。本卓話は総2部で構成されている。1部のサブタイトルは「光とは」で、光の基本概念、光の種類、レーザーの話が構成されている。次に、2部のサブタイトルは「自分の研究テーマ」で、応用光学の一つの分野である「非線形光学」に関する話が構成されている。

光の辞書的な意味は、人間の目を刺激して明るさを感じさせるものであると説明できる。分野によって様々な書き方があるが、自然科学の分野では、光を「可視光線」、つまり「電磁波の種類」と位置付けつつ説明されている。光は波(波動)としての性質と、粒(粒子)としての性質を同時に併せ持っている。まず、波としての性質は、ヤングという科学者の1805年に行われた実験その初段である。その後、マクスウェルらにより光波は電磁波であることが示され、マクスウェルの方程式で波としての性質を記述できるようになった。波の性質からは、反射、屈折、回折など巨視的な性質が説明できる。次に、粒としての性質は、1905年アインシュタインの光電効果か

ら概念が実証された。その後、光は光子 (photon) と呼ばれ運動量や、エネルギーなど微視的な性質が説明できる。

光(電磁波)は、波長(wavelength)を基準として分類することができる。無限-1mの間の領域は「電波」と呼ばれ、テレビ、ラジオ、携帯電話などで用いられている。2 μ m - 800nmの間の領域は「赤外線」と呼ばれ、監視カメラ、赤外センサーなどで用いられている。800nm - 400nmの間の領域は「可視光」と呼ばれ、一般に使われている光はこの領域のことを示す。400nm - 10nmの間の領域は「紫外線」と呼ばれ、オゾン層と関係ある電磁波である。その以下の領域は、レントゲン写真で用いられるX線や、 γ 線などがある。

レーザーは、Light Amplification by Stimulated Emission of Radiation(輻射の誘導放出による光増幅)の頭字語から名付けられており、電磁波を増幅し、コヒーレントな光を発生させるレーザー発振器を用いて人工的に作られる光である。レーザーは大きく二つの特性を有している。一つ目の性質は、「可干渉性(コヒーレンス)」で、空間的コヒーレンスと時間的コヒーレンスに分けて考えることが出来る。光の空間的コヒーレンスは、光の波面の一樣さを計る尺度である。このような高い空間的コヒーレンスのゆえに、ほぼ完全な平面波や球面波を作ることができる。よって、レーザー光は長距離を拡散せずに伝播したり、非常に小さなスポットに収束したりすることが可能になる。一方、時間的コヒーレンスは、光電場の周期性がどれだけ長く保たれるかを表す尺度である。高い時間的コヒーレンスを持つように配慮して設計されたレーザーは、ナトリウムランプなどよりもはるかに良い単色性を示す。二つ目の性質は、「パルス発振」で、ナノ秒~フェムト秒程度の、時間幅の短いパルス光を得ることができる。パルスレーザーは短い時間幅の中にエネルギーを集中させることが出来るた

め、高いピーク出力が得ることができ、時間分解分光や非線形光学、またレーザー核融合などの分野で重要な道具である。最後に応用先について述べる。医療分野では歯科用レーザー、レーシック、ホクロ・メラニン斑の除去などで用いられている。科学分野では非破壊検査、レーザー走査顕微鏡、レーザー分光などで用いられている。工業分野ではレーザー加工機、レーザー溶接などで用いられている。

非線形光学 (nonlinear optics) とは、非常に強い光と物質が相互作用する場合に起きる、非線形の (電磁場に比例しない) 物質の多彩な応答を扱う分野である。レーザーの出現によって発展した分野で、レーザー自体の中でも非線形光学効果は本質的な役割を果たす。非線形光学現象には様々な現象があるが、ここでは主に二つの現象を説明する。まず、代表的な現象として光高調波発生がある。ある周波数の入射光によって、物質から整数倍の周波数の光が放出される現象をいい、非線形光学効果の中でも最も早く観測された基本的な過程である。例には、2倍 (第二高調波発生)、および3倍 (第三高調波発生) の周波数の光を放出する過程があり、レーザー光の短波長領域への波長変換应用到に用いられている。次に、電気光学効果がある。光が電場および電場の影響を受けている物質と相互作用する時に発生する現象であり、屈折率が電界強度の1乗に比例して変化するポッケルス効果と、屈折率が電界強度の2乗に比例して変化するカー効果が挙げられる。





ロータリー情報委員会 委員長 高嶋 良平
改正特別委員会

クラブフォーラム 「これで良いのかロータリー」

- Ⓐ * 今まで培ってきたものを壊す必要はない。I Tなどは採用すべき。
- * 出席免除の規定改正は反対。20年以上の真意は？
- * 従来のルールは、ルーズになっているので、ルーズになったルールを記載して徹底してから考えるべきである。
- * 今のままで良いのではないかと？ 現状で喜んでいきます。
- * 格式を守ってほしい。
- * 守るべき伝統と会員増強等は、拡大すべき。
- * 会員減少の中で、資格を緩めることで格式が落ちている。今までのルールで格式を守るべきでないか。
- * 職業奉仕がロータリーの基本的考えである。社会奉仕との違い、一業一人の人間がかなりの頻度で会うことで良き職業奉仕をする、又、会員も業界のリーダー的存在から集うことにより、良い職業奉仕ができるのである。

今回の改正の五大奉仕の中の職業奉仕を重視すべき。

Ⓑ * 例会について (45回)

- ・ 従来通り (多数回)
 - ・ 月2回で良いのでは (少数回)
- 仕事と両立が困難、出席率を気にする必要性があるか、無いかな。
- メイクアップの利用と活用。大企業の場合難しいのでは。

* 会員資格について

- ・ 社会人として通じる人。・アンダーライン (資料の) で説明されているところ。
- ・ 定款上として、主婦も差し支えないが実際は如何か？
- ・ 三大義務の、出席、会費、Rの友購読 これらが実践できる人。

Ⓒ * 例会・出席規定・休会等について

- ・ 例会は、2週間に1回にしてはどうか？ (70代)
- ・ 今まで通り毎週開催が望ましい (50代2名)
- ・ 毎週開催で、メイクアップ無しはできないか？ (40代)

* 会員資格が緩和され誰でも入会できる

- ・ このままで (従来) 良い (50代)
- ・ 格を維持する為このままで良い (70代2名)

* 入会金の廃止

- ・ 入会金は維持する (全員)

Ⓓ * 例会の開催について

- ・ R I の出した考え方が、ロータリーの理念から乖離しているのではないかな。
- ・ ロータリーの初期の理念を重要視するのか、R I の理念を重要視するのかという様に考

えざるを得ない。

- ・ (R I がロータリーの初期理念をどの様に再認識したのか説明が無い)
- ・ 理念の継承というよりも、組織の維持を優先しているのではないか。

*我々が求められているのは、神戸東RCが「何を大切に・何をしていくのか」

- ・ 神戸東RCは、R I の通りではなく、例会は4回、入会基準も今まで通り、国民の休日の週の休会はOK (財政面等の理由より)
- ・ これまで何度も規定基準が変わってきた。結局財団の資金集めが重要になってしまっている。
- ・ 一方で、「若い人材」を多く入会して欲しいというR I の思いも分かる。
- ・ 若い元気な人材に多く入会してもらうには、もう少し間口を広げる必要あり。
- ・ ロータリーは、人の心の美しさを学ぶ場。
- ・ 皆が会費を払って集まっているのだから、我々(神戸東RC)は、今まで通りやっていたら良いのではないかと思う。

Ⓔ *ロータリーの理念の再認識

- ・ 職業奉仕の原点をもう一度見直さなければならぬ。
- ・ 職業奉仕を難しく考えすぎ、四つのテストと近江商人の三方良しではないか。
- ・ 違う職業の人がいるから、色々な事を知ることができる。学ぶことが大切。
- ・ 人によって、企業によってそれぞれの職業奉仕の中身は異なるが、職業奉仕の精神に則って社内で話すと、やりがいを持ってもらえるようになった。
- ・ R I て何なのか? 世界大会に参加したが主催者の顔が見えない。

- ・ ロータリーとライオンズの違いがわからなかったが、ロータリーには職業奉仕があり、ライオンズにはない。

- ・ R I は会員増強と資金集めの方向に向いている。

- ・ R I の考え方は、会員数の少ないクラブを対象としながら、CLPを推奨しているが、今回の常設委員会を見ると矛盾を感じる。

*規定審議会改正について

- ・ 昔の入会は厳しかった。テリトリーも決まっていたが、今はなくなった。
- ・ 一業一人制度も崩れている。
- ・ 定款に反する細則が優先する項目は、従来通りにやっていけばよいのでは。
- ・ 入会時のインフォメーションもしっかりしていかなばならないと思う。
- ・ ロータリーを語ろう会(ラウンドテーブル含む)を開催してはどうか。

Ⓕ *ロータリーの理念の再認識

- ・ R財団の支援に固執しすぎではないか、寄付金ばかりではない。
- ・ 目的があつての寄付ではない。
- ・ クラブの運営の方が優先ではないか。
- ・ 米山・R財団には、会員が公平に勧誘すべきではないか。
- ・ 入会前のインフォメーションで的確にシステムの説明が必要。
- ・ 米山・R財団の使途が不明なのでは?

*規定審議会改正について

- ・ 会員資格は、従来通りで良いのでは。
- ・ 例会の回数については、毎週の方が健全な計画ができる。
- ・ 当クラブの出席率に関しては、厳しくないのでは。



Ⓔ *ロータリーの理念の再認識

- ・今まで通りの運営で敷居を下げない事が神戸東のステータスが守れる。
- 現状の神戸東は、過去からの努力で今の形が出来ている。これを継承していくのが良いのではないか。
- ・神戸南は比較的規制が薄い、神戸クラブは歴史もあり制約も多い、その中間としての位置付けをもって個性を生かしていくのがいいのでは。
- ・会員増強目的であれば規定を緩和するのがいいと思うが、過去から築きあげられたものを肯定して現状維持で良いと思う。
- ・自由度が高い中、どう個性を出していくかが課題、明文化が必要。
- ・例会がマンネリになっている面が課題。
- ・和気あいあいな面が当クラブの特徴、その特徴を継続すべき。他のクラブが会員減少傾向の中、当クラブはその特徴が生かされてメンバー増強につながっている。
- ・インターネットの例会が認められる中、Eクラブを取り入れる余地もあるのではないか、将来的な視野で検討しても良いのでは。
- ・みんなのコミュニケーションは例会。
例会は必要。
- ・例会の頻度を検討しても良いのでは。
- ・例会はコミュニケーションの場。様々な活動のチャレンジしている中、活動自体が目的になってしまい、その後の検証等も必要なのでは。
- ・個性を生かして、全体を継続していく。
- ・定款変えずに細則変更であれば、年末年始の例会について変更を加えるのも一つの案ではないか。
- ・欠席について柔軟性を持たせても良いので

はないか。

(まとめ)

- ・過去から築かれた個性や特徴を維持・向上する。
- ・細則の出席の点の改正は一考の余地あり。

Ⓕ *無職・代表権のない人は会員に入れない。

(10人全員がNO)

*入会金は取る (10人全員がOK)

*法人会員・支店長交代の入会金半額制度
(9人OK、1人反対)

*神戸RCの入会より高いのはまずい。

*月2回の例会変更は、今まで通り行う・理事会一任に10人賛成

*新しい委員会(公共イメージ・R財団)は理事メンバーに入る(賛成7、反対3)

*今のロータリーは、ライオンズ化している、これは阻止すべき。

Ⓖ *休みをもう少し緩和

*今のままでよい。

*休会制度(会費免除)

*委員長の指名を断らない。

*出席を3回に。





国際ロータリー第 2680 地区

パストガバナー 久野 薫 (神戸東)

「ロータリーのお話し」

皆さんこんにちは。今月はロータリー財団月間 (Rotary Foundation Month) ですから、財団のことを含めたロータリーのお話しをいたします。“ロータリーとは何ぞや?” と問いかけてみますと、百人百様の答えが返ってきます。あたかも共通した概念がないような印象を受けます。それだけ多様であり、硬直 (rigid) した概念で定義できるものではなく、柔軟性ともいえる曖昧 (ambiguous) なものです。つまり、ロータリーとは何ぞや、曰く、言い難しであります。私は神戸東 RC に入会した 1988 年頃から、“ロータリーとは職業奉仕を中心に据えた倫理運動体である” と刷り込まれてきました。それでごく最近まで、通用してきたのです。それがごく最近、ロータリーの巨大化、多様化に伴って、通用しなくなってきたのです。その時が一体、ロータリアン数が 100 万人を超えた、1986 年の頃からか、120 万人という限りなく飽和状態に達した 1996 年頃からか、特定できませんが、少なくとも例会出席規定、限定会員制度に関して規制緩和が相次いだ 1995 年以降、少し変になってきました。

日本のある地区の 1995～96 年度ガバナーをお勤めになった先輩が「“ロータリーはこれで良いのか”、と問われれば、われわれの代表である、R I 理事によって方向付けがおこなわれているのだから、これで良いと言わざるを得ないが、最近あまりにも腑に落ちないことが多く、簡単にこれで良いとは言えなくなった」とおっしゃいました。それほど変貌してきたのです。それと共に、R I と財団の関係も少し変わってきております。そもそも、ロータリー財団というのは、1917 年という、R I がまだ親睦か奉仕かで揺れ動いている草創期に、時の国際ロータリークラブ連合会会長、アーチ C・クランプという人が、まだ第一次世界大戦の最中であって、国際理解親善の為に、何か良いことをするための基金を設立しようと呼びかけて創設された「ロータリー基金」を出発点としたものです。1928 年、R I から独立した組織となり {ロータリー基金} は「ロータリー財団」と呼び名を変えました。つまり「The Rotary Foundation (TRF)」です。あくまでも R I の TRF で、R I の方針に従って教育、人道的事業のみを行う、いわば R I に従属した慈善事業組織であったのです。モットーは「世界で良いことをしよう」であり、ミッションは「ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困からの救済を通じて、世界理解、親善、平和を推進しよう」というものです。ところが最近、R I と TRF の関係が逆転して TRF のための R I となってしまった感があるのです。

本日は何がそうさせたのか、その背景のようなものを語ってみたいと思います。

現在世界のロータリアン数は 2002 年をピークに、120 万人超の横ばいで推移しております。このことは 3 つのことを私たちに教えております。

- ① ロータリーの生みの親アメリカは 1994 年をピークに、わが国は 1996 年の 13 万人をピークに、



クに、ロータリアン数は、右肩下がりの減少が続いております。他のロータリー先進国もドイツを除いて、然りであります。それでいて世界の会員数が横ばいであるのは、それだけ後進国の会員数が増加していることを意味します。事実2003～2013年の10年間、ロータリアン数が右肩上がりに増加しているのは、インド+38%、韓国+26%、ドイツ+27%、台湾+49%、ブラジル+8%とほとんどが後進国であります。一方先進国は、アメリカー15%、日本ー21%、イギリスー10%、カナダ、オーストラリアー14%であります。現在、先進国と後進国の会員数の割合は正確には判りませんが、R I理事会の理事数から推定しても三分の一は後進国の会員が占めていると推定されます。この会員数のバランスの変動が、ロータリーに地殻変動をもたらすこととなります。また、この傾向は今後ますます、顕著になります。2050年の世界の人口は約96億人となります。日本の人口は1億人を切り、日本のロータリアン数は6万人となり、ゾーンは2つになってしまいます。2020年には中国の人口は14億人をピークに減少し、インドの人口がこれをこえます。2050年にアフリカのナイジェリアの人口はアメリカと並ぶことになるのです。今後も人口動態に併せたロータリアン構成になるのです。

- ② この地殻変動によって、自ずからロータリーに求められものが変わってきます。これまでのように世界のロータリークラブを**職業奉仕を中心に据えた倫理運動体**として、一律に規定することが不可能になったのです。世界のロータリークラブを律する最大公約数、スタンダードは見出し得なくなったのです。この多様性をもたらす原因は、ひとり先進国と後

進国という貧富の格差からくる南北の温度差だけではありません、同じ先進国でも東西の温度差、さらには個々人の温度差も関わっておりますが、ひとまず後進国と先進国の温度差を中心に考えてみないと、あまりにも、ことが複雑になってしまいます。

かくして、R Iは勢い、人づくり組織ではなく、物財による奉仕形態をとらざるを得なくなったのです。そしてやがて慈善事業団体、寄付団体、NPO法人への道を歩み始めることになったのです。つまりはR Iの財団事業頼みであり人道的プログラム頼みであります。そしてやがて、2004～5年度R I会長グレンE・エステス シニアが「**ロータリーは世界最大のNPO法人である**」と言っていることになるのです。

- ③ R IのNPO法人化は、ますます“奉仕の理念”“職業奉仕哲学”を希薄化させていきました。ロータリーの組織理念“奉仕の理念”を育むための組織原理は、1業種1人の限定会員制度、例会の週1回の定期的開催、例会出席の重視であります。これらはロータリーの草創期の1930年までに構築されました。当時はR I参加国30か国前後、会員数10万人強、そして何よりもすべてが、**先進国の時代につくられたものであります。それから1世紀も過ぎた今日です。制度疲労は避けられない現在を迎えているのです。**このことは1995年を越えたころから、規定審議会ごとに繰り返される、例会出席規定、限定会員制度、職業分類の規制緩和にみる事が出来ます。現在は例会出席は50%で良しとすると緩和されました。職業分類に関しては既に1968年、R I理事会は、R Iの保有する、いわゆる赤本と称する標準となる職業分類表を、その分類

が、あまりにもアメリカ社会のみに偏向しているゆえを以て、放棄し、各クラブの自治権に委ねる方針を採りました。限定会員制度は、1915年のアディショナル会員制度、1930年のパストサービス会員制度、1939年度のシニアアクティブ会員制度、1970年にはシニアアクティブの自動化の導入によって、制度疲労を露呈したのです。今や2001年からは会員を正会員と名誉会員の二つだけに簡略化して、正会員に10%ルールを適用しました。2007年には財団学友の正会員制度、2013年には専業主婦も正会員として導入しました。(Stay-at-home parent Homemaker)

しかし日本をはじめとする先進国の一部には、あくまでR Iは倫理運動体であるべきとする根強い抵抗があります。こんなわけで**現在R Iには、倫理運動体としてのR IとNPO法人としてのR Iが共存するという異例の状態が続いているのです。**この状態に積極的な折り合いをつける結果になったのが、先の2016年4月の規定審議会だったと思います。

この規定審議会の結果は日本のロータリアンの間に衝撃を走らせました。そればかりかR I理事会でも記憶にとどめるべき、画期的なものだと評価されており、2016年の規定審議会の最大のトピックスは、「柔軟性」という「例外規定」を私たちのクラブ定款の「例会と出席」「会員身分」に関する条項に認めたことです。つまりクラブ定款の、その条項に従わない細則を、クラブ独自で設定することを認めたのです。つまりクラブに柔軟性を認めて、幅広い自己裁量権、自治権の拡大を認めたのです。このことで、クラブは大幅な自治権をもち、半独立組織となり、R Iは連邦政府に変貌したのです。中央集権から地方分権への転換であり、1915年R Iが地区制を引いてクラブを直轄管理する体制から、R I B Iのよう

な中間管理的組織を置く間接的管理制度に変換した、それこそまさにR I創設以来の大変革なのです。

このことは変貌する世界情勢の中にあって、R Iが生き残りをかけた、自己防衛策でもあり、クラブへの直接管理権を大幅に放棄した、R Iの弱体化、衰退への序曲であります。逆にクラブにとってはR Iからの束縛から離れて、自由を獲得した喜ぶべき事態というべきかもしれません。

細則次第では、例会開催を月2回として、出席しなくても退会にならないとすることも出来るし、逆に厳しくして、例会開催を週2回として、メークアップもしないで連続4回以上欠席した場合は、クラブ理事会は過半数を以って退会処分にとこと出来るのです。

会員身分に関しては、**R I定款第5条 会員 第1節一 構成**「R Iの会員は、本定款、細則に定められた義務をたゆまず遂行するクラブを以て構成されるものとする。」、**第2節 一クラブの構成**、今回の規定審議会までは(a)「クラブは善良な成人であり、職業上および(または)地域社会で良い評判を受けている、以下のような正会員によって構成されるものとする」となっておりましたが、今回の規定審議会で「(a) クラブは、善良さ、高潔さ、リーダーシップを身を以て示し、職業上および(または)地域社会で良い評判を受けており、地域社会および(または)世界において奉仕する意欲のある成人によって構成されるものとする。」となり、以下に続く(a)を補足する6つの条件は全て削除されました。

削除された6つの項目は(1) 有益な事業や専門職務の所有者、共同経営者(パートナー)、法人役員、支配人のいずれかであること(2) 有益な事業や専門職務、またはその地方代理店、支店において裁量の権限のある管理職を務め、重要な地位にあること(3) この(1)、(2)から退職していること。(4) ロータリーの目的への献身を示した、地域社会のリーダー



であること（5）財団学友、更には（6）に子供の世話または配偶者の仕事の手伝いの為に、仕事を中断した人、または同じ理由の為に、仕事をしたことのない人が掲げられていました。これらは決して必要条件という訳でも、十分条件というべきものでは決してありませんでした。単なる参考条件のようなものだったのです。

この6つの補足項目がすべて削除されたことは、誰でも安易に会員になれることを意味しません。逆に、**中核的価値観（親睦、奉仕、高潔性、多様性、リーダーシップ）**を保持している会員で構成する必要が明確にされ、肩書きより人柄、外見より中身が問われ、より厳しくなったのです。

日本で米山氏に次いでガバナーになられた井坂孝氏（1931～33年度ガバナー）は「ロータリーは着物の裏を整えて、着心地をよくするような仕事をしている。体に密着するのは、表ではなく、着物の裏である。最近のロータリーは表生地の良いだけ論じられることが多いようで、もっと裏生地の良さ、仕立ての良さを評価されなければいけないように思います」と語られたそうです。まさにスーツの表生地より裏生地、仕立て方が問われているのです。肩書きのみのステータスを追い求めてきた人にとっては失望するところとなったかもしれません。それは誤った選民意識なのです。

この度の規定審議会を受けて、クラブ細則を通じてどのようなクラブづくりをするか、が厳しく求められ、クラブの個性が顕著になって、ロータリークラブに入会するかではなく、どのクラブを選ぶかが問われることになるのです

ところが2010年以後、日本のロータリークラブには、やみくもに増強を図ったつけが回ってきているように思われます。2007年会員数は10万人を切ってインドに次ぐ第3位の会員数になりました。2014年には9万人を切り、現在89000人前後で推移していま

す。そこにはロータリー哲学の追求に熱心でもなく、奉仕活動の実践に熱心なのではなく、財団に適当に寄付して、奉仕の免罪符とし、R Iの動向には無関心で、単に楽しい、楽しいの例会であり、楽しくない、楽しくないでやめていく現状にあるのです。ことロータリーに関しては無関心であります。1983～84年度R I会長ウィリアム・スケルトン氏は、ロータリアンにとっての最悪の罪は、憎しみでも何でもない、同じロータリアンのすることに無関心であることだと言っています。その最悪の罪を犯し始めているのです。

皆さんどのようにして各人の意識を変革して、せっかく与えられたクラブの大幅な自治権を利用してどのような個性ある神戸東ロータリークラブを創り上げようとされますか。それが今問われているのです。





国際ロータリー第 2680 地区

ガバナーエレクト 瀧川 好庸(神戸西)

「ロータリーと職業奉仕」 Rotary and Vocational Service

1. 混沌の中のロータリー

- (ア) ロータリークラブ創立の背景
- (イ) シカゴと 1905 年
- (ウ) なぜ親睦と相互扶助か
- (エ) 奉仕活動思想の芽生え

2. 理論構築のロータリー

- (オ) 親睦か奉仕か
- (カ) アーサー・フレデリック・シェルドンと
チェスリー・ペリーの入会
- (キ) He (One) profits most who serves (his fellows)
best.

3. 職業奉仕の理論

- (ク) profit と serve の意味するところ
- (ケ) 「職業」 profession と vocation と occupation

4. 松下幸之助の職業倫理

昭和 29 年、松下幸之助が銀行に挨拶に行ったとき、

銀行の重役から「あなたは会社をどこまで拡張するつもりですか」という質問をうけました。そのとき松下は、こう答えています。

「それは私にもわかりません。会社を大きくするか、小さくするかは、社長の私が決めることではありません。すべて社会が決定してくれるものだと思います。会社が立派な仕事をして消費者の方々に喜んで頂くならば、もっとつくれという要望が集まってくる。その限りにおいてはどこまでも拡張しなければなりません。しかし、逆にわれわれがいかに現状を維持したいと考えても、悪いものをつくっていたのではだんだん売れなくなって、現状維持どころか縮小せざるをえなくなる。だから会社の今後の発展はすべて社会が決定してくれるのです」

企業が懸命に社会の人々に奉仕し、喜ばれていれば、その奉仕の見返りとして、社会から拡大資金としての利益が与えられるというのです。

松下は事業経営を行う過程で、仕事や事業というものは、公のものである、つまり人々の生活文化を高めていくためにあるのだと考えるようになっていきました。そして、資本なりお金は、その事業をスムーズに進めるための潤滑油のようなものであり、人々のためになるいい仕事をしていれば、必ずついてくる。例えば歌手を考えても、あの人の歌を聴きたいと思えばこそ、お金を出してコンサートへ足を運ぶ。あそここのレストランの食事が安くておいしいと思えばこそ、そこに食べに行く。いくら儲けようと思っても、それに値する仕事をしていなければお金はついてこない。儲けよというのは、「おまえ、もっとしっかりやれよ」という世間の声である。だから、潤滑油であるお金のみのために仕事をしてはいけない。お金はどこまでも道具であって、目的はあくまで人間生活の向上である、というのです。

銀行の重役への返答に松下のその考え方がよく表れていますが、人間がお金にとりつかれ、振り回さ



れている昨今の世相を見ると、今一度、考えるべき大切な視点ではないでしょうか。

5. 職業奉仕（「2013年版手続き要覧」より）

職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、品位ある業務はすべて尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を実践していくという目的を持つものである。会員は、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行う。

〈ロータリーの行動規範〉

ロータリアンとして、私は以下のように行動する。

- 1) 全ての行動と活動において、高潔性という中核的価値観の規範を示すこと。
- 2) 職業の経験と才能をロータリーでの奉仕に生かすこと。
- 3) 高い倫理基準を奨励し、助長しながら、個人的活動および事業と専門職における活動のすべてを倫理的に行うこと。
- 4) 他者との取引のすべてにおいて公正に努め、同じ人間としての尊重の念をもって接すること。
- 5) 社会に役立つすべての仕事に対する認識と敬意の念を推進すること。
- 6) 若い人々に機会を開き、他者の特別なニーズに応え、地域社会の生活の質を高めるために、自らの職業的才能を捧げること。
- 7) ロータリーおよびロータリアンから託される信頼を大切に、ロータリーやロータリアンの評判を落としたり、不利になるようなことはしないこと。
- 8) 事業または専門職上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同輩ロータリアンに求めないこと。





関本 剛
—関本クリニック—

みなさん、こんにちは。

関本 剛（せきもと ごう）と申します。

本日は写真を供覧しながら、簡単な自己紹介の後、私の生業にしている緩和ケアについて、簡単にお話しさせていただきたいと思います。

私にとって、緩和ケアという分野を生業にしたいと決意したきっかけは、祖父の死です。

今から30年前、祖父は膵臓癌に罹患いたしました。発見された時には全身に転移しており、「もう手遅れ」と言われていたそうです。

そんな矢先に、広範囲の脳塞栓を併発した祖父は意識不明となり、当時私の母が麻酔科医として勤めていた病院へ搬送されました。急に意識を失った夫を前にして泣き叫ぶ祖母が強く希望したため、母は自分の父親である祖父に人工呼吸器を装着したそうです。それから1～2週間で祖父は亡くなりましたが、両親に促され、病室へ見舞いに行った私は、言葉を発する事も意思表示をする事もなく、「シューシュー」と機械的な音を発する、もう祖父ではない様な祖父のむくんだ手を怖くて触れませんでした。

「私のお父さんは、こんなことを決して望む人ではない。」と思いながらも祖母の意思にしたがった母も、

大きな後悔を感じていた様です。

数年後、母は灘区にある六甲病院に、日本で16番目となるホスピス病棟を開設する事になります。その時私は高校3年生でしたが、見学に行き、大きな衝撃を受けました。これから1～2週間後に亡くなるであろう、終末期患者たちは、紅茶をのみ、笑顔で他の患者たちと談笑していました。

「同じ命を扱う仕事をするのであれば、ホスピスの様な現場で仕事をしたい。」と感じた事を覚えています。

しかし、終末期医療の事だけを専門にし、「それしかしていない」医師に、まだ積極的治療に対する気持ちが残っている患者は信頼感を抱けるでしょうか？

緩和ケアしかできない医師が、治療中の患者に何を言っても、説得力に欠けるでしょう。

そのような思いから、まずしっかりと治療を学ぶ事を選んだ私は、最も癌患者が多い消化器内科に入局し、市中病院や癌拠点病院での勤務、大学院での研究などを経て、11年間の間に消化器内科専門医・消化器内視鏡専門医・肝臓専門医・癌治療認定医を取得いたしました。

消化器内科での最後の2年間は、大学病院の化学療法センターにおいて、消化器癌全般の抗癌化学療法を担当させていただき、ここでの経験は今でも私の宝となっております。

そして2012年に六甲病院緩和ケア病棟において、緩和ケア病棟専属の医師として働き始める事になります。

3年間、癌終末期の患者さん達と真正面から向き合った経験は、「十分やれている」という自負のあった私の消化器内科医としての緩和ケアが素人に毛の生えた程度のケアであったことを思い知らせてくれました。

六甲病院緩和ケア病棟での勤務の後、2015年4月より、院長である母が十数年前に開業した在宅支援



診療所である関本クリニックに職場を変え、現在医師二人体制で、在宅緩和ケアに従事しております。

関本クリニックは癌拠点病院などから年間約150名の癌患者を引き受け、在宅療養や看取り、終末期の意思決定支援のお手伝いをさせていただいております。痛みのコントロールが不良でホスピスへ入院する方はほとんどいませんが、「動けなくなったら、呼ばすぐに医療者が来てくれる入院環境の方が良い」などの理由から、半数である約70名の患者が入院を選ばれ、関本クリニックから病院へ紹介させていただく患者の多くは、ホスピスへ入院されます。

一方で半数である約70名の患者を自宅で死亡確認させていただいております。

抗癌剤治療や緩和的処置の進歩により、患者が癌のあらゆるステージで適切と思われる治療場所は、流動的に変動する様になってまいりました。

軸足を在宅緩和ケアにおきながら、治療医も経験し、週に一度癌拠点病院に仕事に行き、ホスピス医も経験し、週に一度ホスピスへ出向いている私だからこそ、患者や担当する医療者の負担・ストレスを最低限にするようなコーディネートが出来るのではないかと自負しております。

臨床以外のライフワークとして、多施設調査による臨床研究（現在論文執筆中）、癌拠点病院で行われる医師に対する緩和ケア研修会の講師、病院勉強会での講演、教科書の分担執筆など、お声かけいただく仕事は基本的に引き受け、医療者に対する自分の認識度向上を常に意識しております。

そして、なにより大切なのは、市民に対する緩和ケアの啓発であると考えており、「自分たちに同じことが起こったら、どうする？」という事を日ごろからイメージしていただく為に、昨年末、在宅医や病院の医療従事者で集まり、ある在宅療養患者の顛末を描いた劇を行いました。

このような市民啓発と良質な在宅看取りの連鎖で、

在宅看取りが「文化」となった時、地域で安心して在宅看取りができる世の中がくると信じており、その結果、私を生み、育ててくれた団塊の世代が安心して人生の完成期を住み慣れた環境で過ごせるよう、在宅看取りの質の更なる向上や仕組みづくりをする事が私の使命であると感じています。

時間が来ましたので、これで自己紹介を終わらせていただきます。

御静聴ありがとうございました。





関根 太
—大和証券神戸支店—

私は1963年9月、東京オリンピックの前年に東京の中野区というところで生まれました。その後引っ越しをして幼稚園から結婚するまで東京都豊島区に住むことになります。小・中学は自宅の近くの普通の公立高校へ通いました。小学生時代は少年野球で地区大会準優勝し、中学時代はその流れで野球部に所属しました。小学生の準優勝チームのレギュラーがこぞって入部しましたので過去の栄光に浸りたい練習もせず、良くて2回戦、平常時は1回戦敗退でした。中学1～2年生のころは全く勉強せず非行に走っていたものですから、親には大変な迷惑をかけたと思います。土曜日の午後に、他校の先輩が爆音を鳴らして改良バイクで迎えにきて、近所の人からは訝しく思われ、当然話題にもなりました。中学3年になるとようやく目覚めて高校受験をし、学習院の高等科に入学することになります。入学当時は中学の余韻があった為外見で校内でも目立ち、先輩からは洗礼を受けました。そんな洗礼にへこたれることもなく、校内で礼宮（現秋篠宮）に体当たりをしてSPに押さえつけられたり、態度のでかい後輩を指導しようとしたら田宮二郎の息子だったり、とにかくやんちゃな高校時代でした。

その後、エスカレーターで学習院大学に進学し、体育会のゴルフ部に入部します。体育会ゴルフ部出身では大学こそ違いますが、中川会員が先輩としておられます。中川会員の学校と私の学校では横綱と十両くらいの違いがありますのでとても同じレベルでは語れません。尾山会員がプロのキャディをされているとのことですが、思い出のひとつとして私もサントリーオープンというトーナメントで今解説者をしている大町昭義のキャディをしたことがあり、パター練習場で勝負をさせてもらったことがいい思い出です。

卒業後は、大和証券に入社し30年が経過しようとしています。ロータリークラブの経験は八王子支店長以来になりますが、神戸東ロータリークラブのみなさんは仕事も遊びもスケールの大きい方が多いと思います。また優しい方も多くいらっしゃって初めて慣れない神戸での生活とロータリークラブの活動の中、同窓ということで入会後すぐに山崎会員と加納会員が神戸東ロータリークラブ学習院会を開いてくださいました。スケールの大きさだけでなく、温かみもあるクラブだと感じました。

ここまでは私の雑な生い立ちをお話しさせていただきましたが、証券会社勤務ということもあり、せっかくの機会ですのでマーケットの話を簡単にさせていただきます。

テーマは「ニュース」と「反応」と「情報の価値」です。スクリーンの新聞記事は平成23年（2011）年8月20日の新聞記事です。日経新聞の記事ですがタイトルに大きく「円最高値75円台」「米欧経済に不安感」「国内空洞化拍車も」と掲載されています。下のチャートをご覧ください。これは2011年からの円ドルレートの月足チャートです。ご覧いただくとお分かりの通りで、通常この新聞記事のようなニュースが出たら不安に襲われ、これ以上の円高を恐れて保有している外貨や外貨資産を円転したりするのが一



一般的な心理であり行動だと思います。ところがチャートをご覧いただければお分りの通り、この75円のレンジは翌年2012年1月まで続きますがその後反転、同年5月から9月まで再度調整しますが、その後は見事に円安へと向かっていきます。

この反応は、ミスター円といわれている榊原英資という経済学者が講演で「日経新聞は逆指標」と言っていました。要は170円で買うことができる新聞は多くの誰もが知ることができるニュースソースであり、そのソースを踏まえてとった行動はほぼ最終局面であるという意味だそうです。マスコミは事実を正確にタイムリーに報道する義務がありますが、投資家や投資する人はその使い方を誤ってはいけないということになります。

相場の格言の中に「人の行く裏に道あり花の山」というのがあります。「投資家は、とかく群集心理で動きがちでいわゆる付和雷同である。が、それでは大きな成功は得られない」と説いています。

一方で高い情報とはなにか？ということになりますと、例えば「実はある企業の来期の業績が良くなる」といった情報を社員から聞いた」といった類のものになります。これはインサイダー取引でアウトです。インサイダー取引の定義は「未公表の事実を知り得て株式の売買を行う」ことですから、一般の人が知らない情報で株式の売買を行った結果儲けると捕まることになります。

当社の場合職員が株式を購入した場合は6か月間反対売買ができません。従って多くの人は投資信託を売買するケースが多いです。残念ながら私は資産を家族に吸い取られている為、運用資金がないので運用しておりません。その分は仕事に専念しております。

仕事の関係上、ロータリークラブの方との会話の中でマーケットの話になる機会も多いのですが、先日のブリクジットの際、横山会長に「どうなる？」

と質問され私は「英国が離脱することはありません」と言い切りました。が、結果はまったくその逆となり、英国がEUを離脱するどころか、私がロータリークラブを離脱しなければならなくなりそうになりあわてました。

今回の予想を外したことを反省し、今後は神戸東ロータリークラブの中で唯一の証券会社ということもあり、より正確なマーケット情報を提供させていただく所存でありますので、今後とも引き続きご指導いただければと思います。

つまらない話ばかりで申し訳ありませんでした。以上で私の自己紹介を終わらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。





石原 守

—桜 商会—

私は昭和 35 年 8 月 31 日に芦屋で生まれました。その後、東京に移り東洋英和幼稚園に入園しました。父の仕事は神戸でしたが、母は中々の商才で東京と神戸を行き来しておりました。さすがに幼少期の「単身赴任」に耐え切れず神戸に戻り、甲南幼稚園に転園しました。甲南小学校、甲南中学、甲南高等学校を経て甲南大学経済学部に入學いたしました。ご覧のように完全な「甲南漬け」ではなく 1 年江戸の香りを嗅いでまいりました。現在の天然ボケはこの時期に養われたものです。さて私とテニスの出会いですが中学入学の際、母から「何のスポーツをするの?」と聞かれ、「野球」と答えたところ「バカじゃない」と即答され、「松岡功さん（修造氏の父）みたいにテニスをしたら?」と言われたのがキッカケでした。しかし中学のクラブに入部したところイジメの毎日でした。テニスはさせてもらえないは、罰で走らせるは、とうとう夏休みに退部してしまいました。その時に戦争上がりの父からの往復ビンタが今でも忘れられません。しかし父には内緒でこずかいを貯め、偶然歩いておられたほろ酔いの神戸ローンテニス倶楽部の方からのご紹介で倶楽部に入会させていただきました。

見ず知らずの方からのご縁でテニスがこんなにできたことも神様に感謝しております。どちらかというネットプレーヤーでしたのでシングルスは 16 歳以下の全国ランキング 9 位、インカレも 1 年から出場ぐらいで他方ダブルスは、兵庫県総体優勝、近畿中学総体優勝、全国中学準優勝、高校時代は、兵庫県高校総体、近畿高校総体 2 連覇、全国高校 2 年連続 3 位、長野国体準優勝、大学時代は、全国大学対抗王座決定試合準優勝、インカレベスト 8、JOP ランキング 60 位で日本一は一度もできませんでした。振り返ればあと一つが足りないのと 2 人でやるのが得意でした。卒業後(株)レナウンに 6 年修行後、独立してアパレル会社を設立。(株)レリアンの事業部となる。併せて平成 13 年より(株)桜商会代表取締役。三菱電機、三菱電機エンジニアリングとの合弁会社の(株)シンリョー代表取締役常務を平成 16 年に就任。本願寺神戸別院の門徒総代となり、花隈の駅にエレベーター設置を夢見て地元の商売人達と結束し、「花隈モダンタウン協議会」を設立。本年 11/27 にモダン寺にて「花隈モダンタウンフェスティバル」を開催。兵庫県肢体不自由児者協会の理事就任。振り返ると大勢の方々との出会いに感謝です。特に両親、婦人画報の熊井戸立雄氏、レナウンの尾上清理事長、ヴァンジャケットの石津謙介氏には大きな影響を受けました。特に謙介さんは熊井戸が他界したときに日本で最初のホテルでの偲ぶ会をしていただきました。既成概念にとらわれない自由な発想の方々でした。そして皆様とのかけがえのない出会いに感謝しております。これからもよろしく願いいたします。





植村 浩史

—サザンモール六甲—

こんにちは、6月入会の植村浩史と申します。

日頃は、例会や各活動において、至らない点、先輩方のご指導ありがとうございます。

本日は、皆さんの前で、お話しさせていただく機会を設けて頂き誠にありがとうございます。入会した際に12月に自己紹介する場を設けますとお聞きし、まだまだ先だと、高を括っていましたが、あっという間に6ヶ月が過ぎてしまいました。緊張しておりますが、30分間お付き合いいただけるとい事ですので、落ち着いて喋ってまいりたいと思います。

早速、自己紹介をさせていただきます。私は、現在、神戸市東灘区の御影に在住しております。家族は妻と娘1人の三人家族、娘の名前は萌垂と申します。そして株式会社サザンモール六甲にて不動産賃貸業や店舗の改装、住宅の改装などの事業をしております。子供のころは、まさかこのような仕事に従事することは夢にも思っておりませんでした。何故、今、このようになったのか、自己紹介の機会を頂き、振り返ることができ大変ありがたいことと思います。それでは、順を追って私の生い立ちをお話ししていきたいと思います。私は、昭和48年7月15日、丑年生まれでございます。兄弟は弟が一人、康史といい

ます。兄弟共に音読みしますと、儒教の太祖、「孔子（こうし）」となりますが、恥ずかしい話、私は、論語を全然読んだ記憶がございません。これを機に「論語」を読もうと思います。神戸の海星病院にて誕生いたしました。当時、私の同世代はこの病院では狐塚先生という有名な方に取り上げてもらった方が多く、私もその一人です。

生まれて、暫くは、神戸市灘区の赤松町の母の実家におりました。今は賃貸マンションとなっておりますが、当時は大きい一軒家でした。

幼少期は東京都世田谷区の上野毛というところで過ごしました。駒沢通りを境に瀬田に隣接しており、瀬田の森や丘に歩いて行くことができました。幼稚園は二子玉川の東横学園二子玉川幼稚園というところに行きました。年小のひよこ組の素敵な保育士の大滝先生に初恋をしましたが、出会ったのも束の間、結婚して遠くへ行ってしまい、さびしい思いをしたのを憶えております。年中の「はな組」、年長の「やま組」は体育会系の保育士さんで、叱られてばかりでした。近くの瀬田や多摩川に生き物が多かった為、虫や小動物が好きな子供でした。幼稚園から小学校と、友人と多摩川や、瀬田自然公園等に遊びに行き、かぶと虫や小魚、ザリガニ等を取って遊んでいました。大変恵まれた環境でした。当時の上野毛、二子玉川というのは、高島屋デパートとマクドナルド、東急ハンズ、小さい遊園地ぐらいしかありませんでしたが、今や楽天の本社や、大型商業施設の二子玉川ライズができ、2ヶ月ほど前に久方ぶりに故郷を見に行きあまりの変貌ぶりに驚きました。

小学校の高学年になりますと、中学校受験で塾通いとなり、週に2回から3回程度、電車で品川区の五反田駅の近くの塾に通い、勉強を習いました。塾は夕方に行きますので、そこで仲良くなった友人と帰りに寄り道して駅前のファストフードでタムロしてました。今のコンビニ前でタムロしている子供達

の先駆けをしておりました。塾は通いましたが勉強嫌い、不真面目が祟り、受験した中学校をことごとく落ち親に迷惑を掛けました。最後に受けた神戸の甲南中学校のみ合格しました。中学校から神戸に来ました。それからずっと神戸において生活しております。中学校は卓球部に入部しました。とても楽しかったのですが、先輩のしごきがきつく、2年で卓球を卒業しました。温泉卓球では、強いレベルにはなれたと思います。その後は文化部の人文部という何をしているのかわからない部で物事の歴史を調べました。夏休みに史跡を回る旅行など行きました。ほぼ帰宅部といった感じです。今現在、歴史が好きなのはその時の名残だと思えます。大学は法学部で当時は単位申請に制限がなく、融通が利いたので、スキー、テニス、麻雀と遊んでばかりいました。

甲南学園は、社会に出てからも友達、仕事と生きる場面が多く、中学校受験で合格できて本当に良かったと感じております。勉強嫌いで、忍耐力がない私ですが、運は良かったと今振り返って思います。

社会に出て、就職活動そこそこで住宅のリフォーム会社に就職しました。建築の知識が何もない状態で営業設計という肩書になり、慌てて二級建築士を取りました。先輩の指導、職人の皆さんの協力で色々なリフォーム案件に携わることができました。水回りリフォームが強い会社で、浴室や台所の改装、それに伴うバリアフリー工事などの提案で大変ためになりました。次に入った会社は不動産のオーナー業をしている会社で、不動産運営における、テナント付け、施設運営管理、緊急対応などを学び、一通りのことがつたないながらできるようになりました。

そして12年前の平成16年11月21日に今の会社に入りました。自社やグループ会社の不動産の運営と規模は小さいながら店舗や住宅の改装工事を手掛ける会社で、前職の知識、経験が生きる職場です。オーナー一族ということもあり、2年半ほど前に社長に就

任いたしました。ボウリング場や大型自動二輪のハーレーの担当もすることとなり、不動産、改装工事に加え、学ぶべき裾野が増えており刺激の多い日々を過ごしております。幸い、社内には、各分野に長けた人間がおり、大いに助かっております。

6月にロータリークラブに入会し、皆さんとお話し、卓話を聞き、さまざまな社会奉仕、職業奉仕を体験し、単に自社の利益に固執するのではなく、地域、社会に貢献し、何かを行うにつけ、四つのテストを意識して行い、今回卓話の機会を頂き、改めて、地域社会に欠かせない商業施設、サービス業となるよう身を捧げる所存でございます。今後ともよろしくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました。





地区補助金奉仕プロジェクト
「福祉事業所での本格的なお菓子の製作・販売の支援」事業として

障がい者福祉事業所へのお菓子作り教室を実施しました



本年度、地区補助金奉仕プロジェクト「福祉事業所での本格的なお菓子の製作・販売の支援」事業の一環として10月15日(土)六甲道勤労市民センターにおきまして「障がい者福祉事業所へのお菓子作り教室」(講師 福原敏晃会員)を実施いたしました。

事業所の方々42名、クラブ会員と家族22名NPO法人クルーズ8名、ボックスンのスタッフ4名、兵庫県の障害支援課の方々4名、総勢80名の参加でした。

皆さんお菓子作りに対して真剣そのもの、プロのレシピも全員に公表してお菓子作りのコツ。いい材料を使う事。正確な分量を量る事。道具はいつもきれいに磨いておく事。そして、美味しくなれ。と念じる事等々、お菓子作り神戸マイスターからの指導は非常に参考になったと思います。試食タイムでは、質疑応答が続き、参加された方々にとっても大変有意義な時間でした。産経新聞に記事掲載されました。

本事業はお菓子作りをしている障がい者の福祉事業所を対象に「本格的に売れるお菓子作り教室」の開催。次に事業意識が高く、環境的にも最適な事業所を選定して業務用オーブンや卓上ミキサー等を寄贈してプロとしての技術支援を行い、さらに出来上がったお菓子の販売協力を支援するという事業です。

神戸市内の多くの福祉事業所におきましてお菓子作りを事業として実践しています。しかしながらその作業工程は支援者の技量や知識に頼っているところが多く、作業設備も家庭用オーブンを使用しているところも多くあります。したがって品質や味においても課題の残る現状であります。販売面では事業所の自主販売や限られた地域のイベントやバザーなど特定された方々向けの福祉的支援を頼りにした販売が主流となっています。

厚生労働省の調査によると、一般就労の難しい障がい者が雇用契約を結ばず利用するB型事業所の14年度の月額平均工賃は1万4838円。時間額は187円

という現状です。

こうした状況を打破するためには、新たなステージとして「一般市場での流通」を目指していく必要があります。いわゆる「一般商品」としての販売に向け、プロ仕様の設備を寄贈して技術支援を行い、更に販売支援まで行う事業が必要とされています。障がい者の方に「働きがい」の気持ちを高めていただき、社会との関わりを深めていただきたいと思います。

今回のお菓子作り教室実施後、3カ所の事業所から応募申請を頂きました。委員会で公平に事業所を調査訪問した結果「NPO法人ボレロ」(神戸市灘区)に決定し、理事会にて承認いただきました。

次はいよいよ業務用機材を搬入です。そして更なる技術支援、販売支援を進めてまいります。近いうちに毎月のバースデープレゼントは、「ボレロの美味しいクッキー」に変更になると思います。皆様お楽しみにしてください。

(社会奉仕委員長 香山 道宣)





ハーレーダビッドソン ライダーズクロス神戸港島と チームヨシムラ ゴルフスタジオを見学



今回の職場訪問は会員の職場を訪問させて頂きました。ハーレーダビッドソンライダーズクロス神戸港島は平成27年12月に西原会員がオープンされた販売店です。又、チームヨシムラ ゴルフスタジオは大澤会員の職場であるポートアイランドゴルフ倶楽部内で営業されているゴルフスタジオです。

平成28年10月25日、34名の方々にご参加頂きこの2か所を見学させて頂きました。

ロータリークラブでは「職業は1つの奉仕」という考え方をしています。これは簡単に言うと

「会社側とお客さん側はウィン・ウインの関係」であり、つまりお客さんが商品やサービスに満足して買って頂くという事だと思います。

良い会社にはお客さんが満足する為の色々な「仕掛け」や「工夫」があるはずで、そういうものを学ばせて頂くのが職場訪問の目的であると思います。

ハーレーダビッドソンライダーズクロス神戸港島には、貸しガレージがあり、自宅に大きなハーレーを置く余裕のないお客さんの為等に貸し出しているそうです。その他テストコース、ミニコンサート会場、

テラス、ショップ等がありました。ミニコンサート会場にはバーベキュー設備があり、お客さんは自由に使えるそうです。一方、チームヨシムラゴルフスタジオでは、ゴルフ上達の為にフィッティング、クラブ作り、スイング、フィジカル（ボディーケア）のトータルでサポートするようになったという会社の生い立ちを聞くことができました。これらは正に顧客目線に立った顧客ファーストの考え方であると思いました。

今回の見学では色々とサプライズもありました。ハーレーダビッドソンでは通常、見る事が出来ない

物を見せてもらうことが出来ました。又、チームヨシムラでは参加者数人の方にボールを打って頂き、40ヤードも飛距離を伸ばすというサプライズが起きました。

最後になりましたが、今回の訪問に際しまして西原会員、大澤会員には大変お世話になり、有難うございました。感謝申し上げます。

(職業奉仕委員長 吉田 正人)





第9回神戸東ロータリークラブ杯

中央区少年団親善野球大会を開催

当クラブが協賛する首記大会ですが、足掛け10年で第9回を最後に協賛は終了する事になりました。

この大会は、中央区の小学6年生が最後の野球大会として、日頃は敵味方に分かれて学校単位で試合をしますが、今大会だけは8校が混合し4チームに分かれ試合を行います。

毎年熱戦が繰り広げられ卒業の年の最後の思い出

として非常に有意義なものになっています。

当クラブは、立ち上げから今大会に関与して来ましたが、今後は協賛という形はとりませんが、見守っていきたく存じます。

今までの皆様のご支援、ご協力に感謝致します。

(青少年奉仕委員長 樋口 一哉)



会員随想「神戸東 RC 昨日・今日・明日」

ひやひや どきどきもまた楽しい

松下 衛

私は1988年に、角田会員と岡川会員（退会）のお二人の推薦で入会をさせていただきました。同時期に入会をしたのは、有澤忠雄会員です。有澤先生には、東クラブの事について随分ご教示をいただきました。感謝、感謝です。

忘れもしないのは、先生が家族委員長、私が副委員長の時の家族日帰り旅行です。

有澤先生がご懇意にしている美山山荘へ食事に行くというプランで、下見もし、クラブで募集を行うと、人気もよく、日に日に申し込みが増えてきて、最初中型バスを用意していたのが、大型バスになり、とうとう補助席まで満席になりました。当日は天気も良く、ルンルンの気分で目的地に近づいた時でした。運転手が突然バスを止め「道幅が狭いためこのまま進むと川に転落する恐れがあります」というのではないか。結果バスの車体を木々でこすりながら進め、皆さんを途中から歩かすことなく、拍手喝采を浴びて無事美味しい食事を食べることが出来ました。本当にひやひや、どきどきものでした。また帰りも京都市内で大渋滞に巻き込まれて、三宮には22:00着になるというバス旅行でしたが、ロータリーの友情に甘えてお許しをいただいた次第です。

1993年に新ホテル建設チーム（現メリケンオリエンタル）に移籍をすることに決定し、仕事も多忙になり不本意ながら退会をする事にいたしました。その後大地震を乗り越え、ホテルも無事オープンし、仕事も落ち着いてきましたので、角田会員と三原会員のご推薦を得て、2002年に再度入会をさせていただきました。

2003年6月に例会場の前のロビーで、野田会員から声をかけられて、次年度は親睦家族委員長になるのを知っているか、と尋ねられました。ちなみに野田さんは次年度幹事になることが、決っていました。全く聞いていません、と答えると「言っていなかったかな、悪い悪い、がんばってな!!」とそれだけ言うところかへ行ってしまったのだ。

その時から、創立50周年の年次計画の中で家族

旅行をどこにするか、悩んだあげく、野田幹事の故郷松山道後温泉郷にし、昼食は途中で讃岐うどんを食べる、ただし単なる讃岐うどん店ではうるさい会員？を納得させられないので、元祖讃岐うどん店で食べる計画を立てました。この創立50周年記念家族旅行の人気もよく、募集を締め切ってから、うどん店へ電話を入れると、人気店らしく「当店は一切予約をとりません」と言われ、仕方なく（会員には内緒で）そのまま内心ひやひやしながら、運を天にまかせてバスを店に乗り付けると、なんと一般の観光客が来店する時間前で、我々が着席をするや、ほどなく一般客も来店し満席どころか、店の外では多数の待ち客であふれかえる状態でした。もし数十分到着が遅れていたら、と思うとぞっとした次第です。（お腹がすくと皆怒る）

また夏の第一回花火家族会（創立50周年記念花火家族会）も天候に左右される企画で、雨で中止になることもなく、かくも左様に今日まで運に恵まれて来ました。私が運の良い男なのか、東クラブが運の良いクラブなのか？どちらでしょうね!!

2011年度久野先生が、会員の総意により、ガバナーを務めることになり、2005年度の久野会長、松下幹事のご縁で、代表幹事を務めることになりました。この1年間、本当にクラブ挙げてのご支援、ご協力のもとに無事年度を終了出来た事は、私のロータリーライフの中でも忘れる事の出来ない一つです。私自身がロータリアンとしてこの様にどっぷりつかるとは、夢にも思っていませんでした。

思い返せばこのロータリーとの出会いを作っていたいただいたのは、当地区パストガバナー故平島健次郎氏で、1969年に財団奨学生としてホテルマネージメントの勉強をする道を開いていただき、そのお陰で帰国後も今日まで、歴代ガバナーや委員長、委員の方々とご面識を賜り、ご教示をいただきました。ロータリー学友活動は私のライフワークですが、第2680地区に留まらず、いまや日本全国、世界中にネットワークが広がっています。

2016年は加藤会員、光葉会員、直近では樽本会員が、ご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。当クラブには5名の明日を担う新会員が入会されました。職業奉仕を第一として、親睦を深めて、ともにロータリーを楽しみましょう。



「秋の丹波篠山 こだわり味覚グルメと陶芸体験の旅」 を堪能しました



2016年11月23日(水・祝)旅のテーマを「秋の丹波篠山 こだわり味覚グルメと陶芸体験の旅」とし日帰り家族旅行を実施いたしました。

午前中は、丹波立杭焼の窯元「かねと窯」を訪ねて登り窯の見学と四代目当主清水圭一様からご指導、ご助言をいただきながら、陶芸体験を行いました。皆様の作品の出来上がりが楽しみです。昼食は、但馬牛の生産者が運営する地元では大変人気のあるレストラン「牛屋たなか」にて、但馬牛とワインなどのお酒をたくさん愉しみ、会員とそこでご家族相互の

親睦をより深める機会となったと思います。午後は、小雨模様となりましたが、創業から160年以上続く酒蔵、清酒「小鼓」で有名な西山酒造場を訪れ、国の登録有形文化財に登録されている建築物の見学と説明を聞き、数種類のお酒の試飲をいたしました。

旅行当日は、少し肌寒く、曇り時々小雨模様のお天気となりましたが、総勢43名のご参加をいただきまして、安全に楽しい旅行となりましたことをご報告いたします。

(家族委員長 菅野 和矢)





「第5回絵本作家永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」 が雨天の中開催されました。



11月27日(日)恒例になっております永田萌先生指導による首記絵画教室も5回を数える様になり益々充実して参りました。

今回は定員100名に対して180名を超える応募があり抽選の結果100名を選ばれ、約70名の参加となりました。

当日は、雨にもかかわらず、当クラブからは会長以下22名のボランティア(お手伝い)を頂き誠に有難うございます。

初めての雨となりましたが、参加の子ども達は、最後までねばり強く写生に取り組み、その姿勢は、大人の私たちから見ても感動ものでした。

先生方も悪条件にもかかわらず、いつも以上に熱

心にご指導頂き感謝にたえません。

雨天と言う事でゴリラ等の剥製が展示され、その写生は一本、一本細かい毛まで描き込まれ、仕上がりの迫力は相当なものでした。

今回は、事前に永田先生による卓話があり本事業の内容をよく理解頂けて良かったと思います。

また、雨天の為参加者は少なめでしたが土田剛司国際奉仕委員長の尽力で国際学校にもアピール出来良かったです。

最後に、悪天候にもかかわらず多くのメンバーの協力を得られた事に大変感謝しています。

有難う御座いました。

(青少年奉仕委員長 樋口 一哉)





生徒たちが心待ちにしている 友生支援学校招待ボウリング大会を開催



12月9日（金）六甲ボウルにおきまして、神戸市立友生支援学校招待ボウリング大会を開催いたしました。参加人数は先生・生徒合せて約130名、神戸東ロータリークラブのメンバー12名。生徒達にとっては年に一度の楽しみな行事です。「おはようございます。」「ありがとうございます。」と挨拶の言葉が行

き交い、生徒達の喜んでる姿を見ると大変嬉しくなります。閉会式でのお礼の言葉を知的障害の生徒さんが一生懸命伝えようとしている姿には感動しました。今までも、これからも大事な社会奉仕事業だと実感いたしました。

（社会奉仕委員長 香山 道宣）

青陽東養護学校の皆さん 300 人をご招待して盛大に開催



平成 29 年 1 月 13 日、神戸六甲ボウリング場において神戸市立青陽東養護学校をご招待して、恒例のボウリング大会が開かれました。

今年も生徒さん・引率の先生方を含めて約 300 人が集合して 3 階のフロアーを貸切り、始まりました。あちこちで大きな歓声が上がリ、1 本でも多くのピンを倒そうと白熱のゲームが展開されました。その間には、校長先生より養護学校の現状・問題点、この会がきっかけとなり 2 名の生徒が障害者の団体に

参加できたことなど、いろいろ教えていただきました。

その後、正午にはしっかりと閉会式を行い、生徒さんたちからたくさんの誠意と記念品を受けました。

私たちロータリアンも生徒たちからエネルギーをいただき、来年も引き続きこのボウリング大会を継続していくことの大切さを感じました。

(社会奉仕委員長 香山 道宣)



忘年家族会が総数 118 名で盛大に開催されました。



12月20日(火)の17時30分より今年最後の移動例会を開催し、18時より会員、ご家族、その他、総勢118名の参加を頂きまして、忘年家族会を開催いたしました。この日限りの結成バンド、ピアニスト安藤義則氏が率いる「サウンド・オブ・サントノール」の素晴らしい音楽で会場は盛り上がり、また、理事、役員及び委員長の皆様、有志の会員様から提供頂きました豪華景品が当たるお楽しみ抽選会も盛大に行

われました。ご寄贈をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。また、家族委員会メンバー、事務局様には、事前準備、当日の運営に多大なるご協力を頂きまして誠にありがとうございました。

2016年の忘年家族会が盛会に行われましたことをご報告いたします。

(家族委員長 菅野 和矢)





神戸東ロータリークラブ ワイン同好会 創立 30 周年記念例会



神戸東ロータリークラブ ワイン同好会は創立以来 30 周年を迎え、2016 年 11 月 15 日午後 6 時より神戸メリケンパークオリエンタルホテルに於いて、30 周年記念例会を催しました。

30 周年を祝ってこれまでの最多、57 名の会員と奥様が参加され華やかなパーティとなりました。

角田代表世話人の開会あいさつのあと、小倉会員より発足当時のエピソードが語られ、樽本会員の乾杯のご発声に続いて高石会員による、乾杯の歌が高らかに謳われ、会が始まりました。

今井世話人より当日のワインリストの解説があり、岸本料理長の料理メニューの説明のあと、和やかに会食が始まりました。

ワインと料理を楽しみながら、ヴァイオリニスト眞田彩さんの演奏に酔いしれました。眞田彩さんは英国王立音楽アカデミー、ヴァイオリン科を首席で卒業され、ヨーロッパ各地、日本で活躍中の若手音楽家です。

眞田彩さんの出演にちなんで、当日のワインはすべて音楽に関係の深いものに統一しました。

(報告者 今井 拓雄)



Wine List

Grand Cru Sillery Cuvee
Clavier N.V.
[Francois Seconde]

Etude Chardonnay Carneros
2013 [Etude]

On The White Key 2013
[Arietta]

Pinot Noir "Prima Donna"
2011 [Pegasus Bay]

Riesling Ice Wine 2006
[Eroica]

神戸東RC I.Y.F.R. 同好会

秋のランチパーティーを開催



2016年10月16日(日)の10時30分より、神戸東RC I.Y.F.R. 同好会の「秋のランチパーティー」が芦屋マリーナにて開催されました。

最も心配していたのは天候です。台風シーズン中の開催ですので、自称「嵐を呼ぶ男」の井元憲生世話人(以前、井元憲生世話人がI.Y.F.R.のコモドアの時に、開催地の神戸に台風が直撃を受けてしまいました。)が、また嵐を呼び寄せないかと心配しておりましたが、当日は幸いにもさわやかな秋のクルージング日和に恵まれ、京都からはI.Y.F.R.国際役員の梶野興三様御夫妻とご友人、そして西宮R

C「マリアンズ」からも日高厚様をはじめとした皆様にご参加いただき、総勢38名の集まりとなりました。

深まる秋のマリーナを望みながら、特別なお料理、特別なワインを楽しみ、またジャンケン大会では大変盛り上がりました。

パーティーの終了後はレストラン脇に停泊中のヨットや大型クルーザーで暗くなるまでマリーナの秋の夕べを楽しみました。

(代表世話人 乙守 典厚)



▲7月19日「規定審議会報告」
改正特別委員会 委員長 高嶋良平



▲9月6日「保険の話」
白田勉 会員



▲7月26日「真珠の話」
須藤雄二 会員



▲9月13日「人口と人工知能と不動産」
田中健三 会員



▲8月2日「臨時総会」決算・予算



▲10月4日「米山記念奨学事業 ご寄付のお願い」
米山記念奨学委員会 委員長 井元憲生



▲8月30日「ここが変だよ兵庫県会議員」
樫野孝人 会員



▲10月18日「阪神間からの文化戦略」
評論家・文化プロデューサー 河内厚郎氏



▲ 11月8日「日本経済と金融政策について」
大阪銀行協会専務理事 高橋英行氏



▲ 12月6日 年次総会
「次々年度の会長及び次年度役員・理事の選挙」



▲ 11月15日「Peace and Natureの活動について」
Baharam Enanloo 氏



▲ 1月10日「初釜例会」
川島宗治 会員



▲ 11月22日「子どもと絵画」
永田 萌 氏



▲ 1月17日「前立腺について」
後藤章暢 会員



▲ 12月6日 年次総会
「クラブ定款・細則の改正」



▲ 1月24日「日本の戦車の技術的進化」
西原興一郎会員・六車一等陸佐・工藤三等陸佐・高橋三曹



余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年九月九日 於 西村屋 花みかげ

折れ伏して風の狼藉野分後 本郷 桂子

重陽や漢より伝ふこと多し 高石 潜菴

重陽の夕餉楽しむ銘酒かな 白羽 子誠

草の原すべて平伏す野分かな 角田 伯堂

菊の日や祖母との日々の遠くなり 壺井 仙岳

野分過ぎ淀む空気を一掃す 吉井 聖倅

重陽や祖母の寿命を菊に聞く 関本 剛

よく笑ひ長生きをして菊の酒 松原 氣宏

古き小屋戸のきしむ音野分かな 池西 清栄

夕なづむ森を揺らして野分かな 神品 平

菊の日や長命一途願ひをり 橘 恵子

野分過ぐ若枝撓りて耐へ切りぬ 村野 離翔

余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年十一月四日 於 西村屋 花みかげ

鳴きとぎれ散りとぎれたる秋惜む 本郷 桂子

帰り来しわがふるさとに虫を聞く 執行 執帥

金風の吹きわたりをり由布の岳 高石 潜菴

いわし雲空一面の淡路島 白羽 子誠

虫の音の途絶えしあとの闇深し 角田 伯堂

秋空に千年の杉突き抜ける 則岡 弘士

復興の緒に就きし村天高し 壺井 仙岳

金木犀風にただよひ時惜しむ 松谷 泰山

旅終へて別れを惜しみ秋惜む 吉井 聖倅

石畳濡れて秋色京の朝 関本 剛

長き夜や推理小説読みふける 松原 氣宏

草々の色づく野辺の虫の声 池西 清栄

打水の石畳行く女あり 神品 平

子のごとく新米抱きて帰り来る 橘 恵子

山深し鹿駆けのぼりかけ下り 村野 離翔

昨日より少し寂しく虫の秋 飯田 美音

余韻会 (俳句同好会)

平成二十八年二月一日 於 西村屋 花みかげ

マスクして多言を控へをりしかな

本郷 桂子

マスクして列車の中で眠る群れ

執行 執艸

マスクせし歯科医の顔のわからずに

高石 潜菴

マスクせし黒き瞳の輝やける

角田 伯堂

愚痴ひとつおでんの湯気に温まり

壺井 仙岳

登り窯寝ずの番するマスクの瞳

吉井 聖倅

マスクごし息ととのへて告白す

松原 氣宏

一人居につくり過ぎたるおでんかな

池西 清栄

短日や仁王像はや暗く立つ

橘 恵子

詰め合うておでん屋台にまた一人

村野 離翔

言葉なく挨拶交はずマスク越し

飯田 美音





絵と文 高石 昇

「不思議な樹（ササシマスオウノキ）30号」

4年前に西表島を訪れた時、根っこが円板状に切り立つ樹に出会い驚いてシャッターを切りました。彩墨画は家内の画に文句を言っている内に、つい自分でも筆をとり京都市美術館に於ける展覧会に出展してしまいました。
 “牛に引かれて善光寺”

CONTENTS

ガバナー公式訪問	1
米山月間	5
クラブフォーラム 「これで良いのかロータリー」	7
ロータリー財団月間に因んで	10
職業奉仕月間に因んで	14
新入会員自己紹介	16
「お菓子作り教室」	23
職場訪問	25
中央区少年団親善野球大会	27
会員随想 「神戸東RC昨日・今日・明日」	28
「日帰り家族旅行」	29
「絵本作家 永田萌さんと王子動物園で絵を描こう」	31
「友生支援学校招待ボウリング大会」	33
「青陽東養護学校招待ボウリング大会」	34
「忘年家族会」	35
同好会報告 ワイン同好会 (30周年)	37
I.Y.F.R. 同好会	38
例会スナップ	39
余韻会	41

編集後記

今年度第2号の会報は大変盛りだくさんの内容になりました。
 室津ガバナーの公式訪問から始まりたくさんの各対外奉仕事業・対内親睦事業などを網羅しております。各委員長さんには原稿のご協力を戴きありがとうございました。第1号に引き続き会員随想「神戸東RC昨日・今日・明日」ではロータリー財団奨学生として留学経験もおありで、久野ガバナー年度の代表幹事を努められ、ロータリーの「生き字引」の様な松下会員に随想を戴き懐かしいお話をお書きいただきました。
 各事業に参加をして少し気が付いたことですが、入会の日が浅い会員は神戸東RCの各事業に委員会に関係なく是非ご参加ください、きっとわがクラブの素晴らしさに気づき「ロータリー愛」が深くなると思います。

雑誌会報委員長 石橋 恒生